

令和5年度 学校経営計画及び学校評価（案）

1 めざす学校像

確かな学力と意欲・志、高いコミュニケーション能力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する学校・地域に愛される学校をめざす。

1. 学力の向上（「わかる、楽しい、規律ある授業」の展開、基礎的・基本的学力の定着、進学に向けた学力の向上）
2. コミュニケーション能力の向上
3. 地域連携の推進

2 中期的目標

1 学力の向上（学ぼうとする力の育成）

(1) 本校生徒に対して『授業のユニバーサルデザイン化（以下UD授業）』『楽しい授業』『規律ある授業』が行えるように、教員の授業力を向上させる。

ア 本校勤務年数が少ない教員への日常業務を通じた指導法の継承(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行う。

イ 教員相互の授業見学や研究授業を積極的に行う。

ウ ICT機器の活用をすすめ、プロジェクターを活用できる環境を整備して、教員の授業改善を行う。

エ 規律ある授業が行えるよう、遅刻削減に取り組む。

※（令和6年度に遅刻総数の年間5000件以下となるよう努める）（R2：6438、R3：5134、R4：2539）

(2) 生徒の学習習慣を確立させることを通して、生徒の学習意欲を向上させる。

ア 生徒が放課後に校内で勉強できる場（自習室・図書室）を整備し、教員が生徒の個別指導を行える体制をつくる。

イ 読書習慣を確立して、読み取る力の向上に努める。

ウ ICT機器を活用し、わかる授業で年度末の成績不振（欠席30日以下の生徒）を無くす。

(3) 生徒一人ひとりの進路目標に合った学力（それぞれの学力）を育成する。

ア 義務教育段階の学力習得を目的とした茨田検定（振り返り学習）・「基礎教養講座」や、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。

イ より発展的・応用的な学力の習得をめざす生徒に対する授業内容を充実し、授業以外の講習などを積極的に実施する。

ウ キャリア教育の一環として生徒の進路に応じた講座を充実させ、それぞれの進路希望を実現させる。

※（生徒の進路が多様化するなか、令和6年度も進路決定率90%を超えるよう努める）（R2：85.2%、R3：84.5%、R4：95.1%）

2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出

(1) 安心・安全で、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。

ア すべての教職員のコミュニケーション指導力を充実し、いじめの早期発見と組織的な対応に努める。

イ 教職員ピアメディエーション（以下「PM」）研修を実施し、PMの理解促進及び普及を図る。

ウ 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。

エ 安全・安心な学校づくりのため、災害や新たな感染症などに対応した危機管理意識の醸成を図る。

(2) 生徒のコミュニケーション能力向上を図る

ア 生徒コミュニケーション能力の向上を図る機会を充実し、いじめを起こさない生徒の育成に努める。

イ コミュニケーションコースの内容をより充実させ、コミュニケーション能力の更なる向上をめざす。

ウ 英語などによるコミュニケーション・プレゼンテーション能力の向上を図る。（カルチャー・デイによる異文化理解、プレゼンテーションを意識した英語授業）

エ 面接指導等の進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。

オ 障がい者に対する理解を育て、思いやりがある生徒の育成に努める。

(3) 教員の資質の向上

ア 校内外の研修を積極的に活用し、人権意識を高め、生徒に寄り添い課題を解決できる教員の育成に努める。

イ 食物アレルギーや新たに起こる感染症などに対応し、生徒・教職員の安全と、学校行事や学びを守る取組みに努める。

ウ 家庭や中学校、福祉との連携を行い、組織として中途退学や不登校の未然発生に努める。

エ 学年会・教育相談委員会・生徒指導部会などで情報共有し、生徒理解のための指導体制を確立する。

※（令和6年度に1年生の退学者を15%以下となるよう努める）（R2：25.7%、R3：21.8%、R4：13.4%）

3 地域連携の推進（地域の人と楽しむ学校）

(1) 地域連携を通じた生徒の成長

ア 地域に育てていただいた感謝の思いを持ち、地域貢献のための活動に参加する。

イ 地域の一部として活動を支援してもらうため、地域の人々を学校に招聘して理解を深めてもらう。

(2) 中学校との連携の充実

ア 学校の活動を広く理解してもらうため、学校HPの充実に努める。

イ 在校生の成長過程をより知ってもらうため、中学校との連携の充実に努める。

4 校務の効率化で働き方改革の推進

(1) ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。

※令和6年度に時間外勤務月80時間以上の職員をなくす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
回収率：生徒98%、保護者67%、教員100%（以下の数値R4%→R5%） ①学習指導に関するもの 生徒78.6%→56.5%△、保護者67.7%→70.4%○、教員86.7%→100%◎ ②評価に関するもの 生徒88.5%→73.4%△、保護者88.7%→83.3%△教員93.3%→90.9%△ ③生徒指導に関するもの 生徒72.9%→65.6%△、保護者83.5%→75.5%△、教員67.7%→86.4%◎	☆第1回（令和5年6月29日） 子どもたちに対しては、自信をつけてあげることが大切である。自分の強みを教員が会話の中で引き出すことが自己肯定感を上げることにつながる。 これからの2年間は学校活動で外部と連携する取組みが勝負となる。拡大しすぎず、できるだけ効果を上げられるような工夫で実現して欲しい。閉校する学校は、生徒たちの満足度を持たせられるかにかかってくる。教員同士の情報共有を密にし、一人ひとりに必要なサポート、人権的な配慮、いじめアンケートについては潜在的な小さな芽にも丁寧に対

府立茨田高等学校

<p>④進路指導に関するもの 生徒 90.1%→74.5%△、保護者 90.6%→83.3%△、教員 87.1%→90.9%○</p> <p>⑤いじめに関するもの 生徒 85.2%→75.3%△、保護者 84.4%→64.8%△、教員 67.7%→86.4%◎</p> <p>⑥道徳指導・人権教育に関するもの 生徒 91.7%→80.6%△、保護者 84.5%→79.6%△、教員 58.1%→77.3%◎</p> <p>⑦教育相談に関するもの 生徒 82.7%→74.9%△、保護者 93.8%→90.7%△、教員 93.5%→90.9%△</p> <p>⑧特別活動、学校行事に関するもの 生徒 89.5%→67%△、保護者 80.2%→81.5%○、教員 93.5%→95.5%○</p> <p>⑨災害に関するもの 生徒 90.6%→78.7%△、保護者 78.1%→77.8%△、教員 71%→86.4%◎</p> <p>⑩学校に対する意識に関するもの「学校へ行くのが楽しい」 生徒 75.4%→64.9%△、保護者 75.3%→79.6%○</p> <p>回答の数値については今年度より募集停止により、在籍生徒・保護者、教職員数が激減しており、例年と比較しにくい状態である。</p> <p>特に「自分は部活動に積極的に取り組んでいる」という回答が、新たに部活動を始めた生徒はいないはずであるが、数値は前年度より 16.5%高くなっている項目もある。行事については、少ない生徒数で実施するため、生徒の満足度を上げられる工夫が必要と考えられる。</p> <p>数値だけを比較すると、生徒の回答は、全体的に昨年より肯定率が低下している。保護者の回答は全体的に横ばいか、低下している。それに比べ教職員の回答はほとんどの項目で肯定率が上昇している。</p> <p>このことは、令和5年度の取組みについて、生徒・保護者と教職員との間で意識が乖離していることがうかがえる。特に学習指導や生徒指導、いじめ、道徳指導・人権教育、災害に関するものについて顕著である。教職員が生徒や保護者ニーズを意識した指導や取組みが一層必要であると言える。</p>	<p>応じて欲しい。教員が少ない状況でも全員でアンテナを張ることが非常に重要となる。</p> <p>リソースとマンパワーは不足していくが、教員も含め、楽しむ、面白くするなどの振り切った発想でどのような方向性でいくか、教員も生徒も一体となって欲しい。</p> <p>☆第2回（令和5年11月9日） 閉校を控える中で卒業生などに積極的に声をかけることは有効ではないか。様々なコミュニケーションチャンネルを活用して行ってはどうか。 行事は少人数ながら上手く運営していた。生徒を丁寧に見ていき、楽しく登校してもらうことが大切。令和6年度は最後の生徒の姿をイメージして振り切った取組みを是非やって欲しい。茨田高校をどのように閉めるかといった視点が不足している。エンドリミットに向けたデュアルシステム（原則的な取組みと閉校モードの取組み）は良い。 令和6年度の計画については、教職員全体でどんどん議論を深めていって欲しい。心のモニュメントをめざして、教職員の生徒に対する情熱をもっと出していくことが重要。生徒には、たくましく生きられる人間に育つよう、コミュニケーション能力を発揮した適応能力を身につけて欲しい。</p> <p>☆第3回（令和6年1月25日） 授業アンケートでは、興味関心や知識技能について3.6以上の過去最高値であるが、学校教育自己診断では生徒においてマイナスの値が多く、数値での解釈が難しい。 イベントの企画は飲食が絡むと生徒の満足度が高まる。避難所体験では不足する食料をどう分けるかなど地域の避難計画と絡めてやることは大変意義がある。 閉校した学校の経験から、何とか生徒を盛り上げて喜ばせようということが大切。母校がなくなることは非常に大きなこと。卒業生を巻き込めば大きなことができる。 生徒たちのエネルギーを掻き立てれば、さらに満足度や思い出に残るものになる。不登校気味の生徒もたくさん登校してくれるようになれば。 いじめ対策についてはしっかりと対応して欲しい。コミュニケーション総合については学校経営計画に寄与するようなコーディネートをしたいと考えている。災害に関する取組みは、南海トラフ巨大地震が予想されているので、非常に重要な取組みである。最後の生徒たちにこれまで以上に特別な思い出を残せるようにしてあげてほしい。生徒自身の主体性を引き出すことが大切。 ターゲットは生徒が茨田で良かったと思えること。生徒一人ひとりのコミュニケーションの機会をつくる「茨田リビング」は非常に重要な取組み。先生と生徒の垣根をとり、状況に応じて使い分けることができることも先生自身の成長にもなる。生徒からのアイデアも聴取し、大きな取組みの1つではなく、こまめな企画も打っていくことが大切だと思う。進路の結果から生徒一人ひとりに寄り添った結果が出ている。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 学力の向上	1)『UD 授業・楽しい授業・規律ある授業』の実現に向けた教員の授業力向上	1) ア 担当首席を中心に管理職や分掌長等が講師となり、若手育成に当たっている研修組織（青葉会）の内容を充実 ・本校勤務年数が少ない教員に対して、年度当初に授業規律の確立を重点的に指導 ・年度当初に、ユニバーサルデザインの視点に即した教室整備を実施	(自)：学校教育自己診断 (授)：授業アンケート 1) ア・青葉会を年間12回実施 ・2点を重点的に指導する。 《授業規律》 「(授) 授業に集中して取り組む」 目標：3.5[3.56] 《ユニバーサルデザイン化》 「(授) 授業の目標・ポイントの明確化」 目標：3.5[3.56]	1) ア・青葉会は初任者がいなかったため実施しなかったが、経験年数が少ない教員に対して首席や管理職から言葉がけなどでアドバイスをする取組みを通して資質向上を図った。(○) ・「(授) 授業に集中して取り組む」の結果3.67となり、目標値3.5を上回った。(◎) ・「(授) 授業の目標・ポイントの明確化」の結果3.68となり、目標値3.5を上回った。(◎)
	ア 本校勤務年数が少ない教員へのOJTの実施	ア 担当首席を中心に管理職や分掌長等が講師となり、若手育成に当たっている研修組織（青葉会）の内容を充実 ・本校勤務年数が少ない教員に対して、年度当初に授業規律の確立を重点的に指導 ・年度当初に、ユニバーサルデザインの視点に即した教室整備を実施	ア・青葉会を年間12回実施 ・2点を重点的に指導する。 《授業規律》 「(授) 授業に集中して取り組む」 目標：3.5[3.56] 《ユニバーサルデザイン化》 「(授) 授業の目標・ポイントの明確化」 目標：3.5[3.56]	ア・青葉会は初任者がいなかったため実施しなかったが、経験年数が少ない教員に対して首席や管理職から言葉がけなどでアドバイスをする取組みを通して資質向上を図った。(○) ・「(授) 授業に集中して取り組む」の結果3.67となり、目標値3.5を上回った。(◎) ・「(授) 授業の目標・ポイントの明確化」の結果3.68となり、目標値3.5を上回った。(◎)
	イ 教員相互の授業見学・研究授業の実施	イ・年2回の公開研究授業実施。校外外で実施される授業力向上に関連する研修、公開授業、に積極的に参加。成果を校内で共有 ・UD 授業の取組みで、本校生徒の理解がより深まる授業を実施	イ・研究授業・研究協議の実施 目標：5回 ・年度末に授業力向上研修を実施し校内での共有化を図る。 「(自) 授業改善を行っている」 目標：90%[86.7%]	イ・研究授業・研究協議の実施は10年め研修を軸として指導教諭中心に指導助言も含め目標の5回を実施した。(○) ・「(自) 授業改善を行っている」は100%で目標値90%を上回った。(◎) カードによる学習など、工夫を行った。

府立茨田高等学校

ウ ICT 活用による授業改善	ウ・校内の ICT 機器、大型プリンター等を活用し、UD 授業の視点に立った教材の作成 ・生徒による学校教育自己診断の結果を検証して授業力向上へ結びつける方策を確立するため、授業力向上委員会で授業改善・評価方法の検討を行う。	ウ・「(自)授業が分かりやすい」 目標：80%[78.6%] ※さらに改善に努める ・「(授)授業内容に興味関心」 目標：3.5 以上[3.44] ※授業改善をさらに進める	ウ・「(自)授業が分かりやすい」の回答は 56.5%で目標値の 80%には届かなかった。(△) ・「(授)授業内容に興味関心」の回答は 3.6 で目標値の 3.5 を上回った。(◎)
エ 規律ある授業に向けた生徒の遅刻削減	エ・遅刻の回数に応じて、担任、学年主任、首席、教頭、校長による説諭を実施 ・遅刻の回数に応じて、学年による放課後清掃指導等を行い、生徒の意識に働きかける。	エ・年間遅刻総数 2000 人以下 [2539 人]	エ・年間遅刻総数は 1100 人で目標値の 2000 人以下を大きく下回った。(◎)
2) 生徒の学習習慣確立を通じた学習意欲の向上	2)	2)	2)
ア 放課後学習の場(自習室・図書室)を整備し、教員が個別指導できる体制作り	ア・考査前、考査中の自習室と図書室への教員常駐と生徒に対する個別学習指導の実施 ・定期考査前の学習や長期休業期間後の課題学習など、時期に応じた生徒の個別学習を充実させるよう、各教科が教材準備や指導を実施 ・授業開始後に 5 分の規律指導、さらに「振り返り」「漢字」「計算」などの 10 分間の小テストを実施	ア・自習室を考査前、考査中には毎日開室 ・「(自)日常的に放課後学校での学習や、家庭での学習をする」 目標：60%[55.7%] ・英数国の小テストを実施し、学ぶ意欲を醸成。 「(自)まじめに授業に取り組む」 目標：85%[86.4%]	ア・自習室を考査前、考査中には毎日開室し、教員の無人がでないよう、当番も決めて実施した。(○) ・「(自)日常的に放課後学校での学習や、家庭での学習をする」の回答は、53.2%で目標値の 60%を下回った。(△) ・英数国の小テストを年間通して実施し、学習意欲の醸成を図ったが、「(自)まじめに授業に取り組む」の回答は 72.3%で目標値の 85%を下回った。(△)
イ 読書習慣の確立	イ・毎日の終礼、総合的な学習の時間、LHR、基礎教養などの時間を利用して、年間を通した「10 分間読書」活動を企画実施	イ・10 分間読書を年間で 10 日実施 [10 日実施]	イ・10 分間読書を年間で 10 日実施。(○)
ウ ICT を活用したわかる授業による、成績不振による留年の防止	ウ・ICT 機器活用による生徒の授業理解をすすめ、年度末成績不振(欠席 30 日以下の生徒)による留年をなくす。	ウ・成績不振留年者対策：ICT 機器活用を進め、より分かりやすく丁寧な指導で削減する。 目標：5 名以内[9 名]	ウ・成績不振留年者は 3 名となり、目標 5 名を下回った。(○)
3) 生徒個々の進路目標に合った学力の育成	3)	3)	3)
ア 義務教育段階の学力習得を目的とした「茨田検定(振り返り学習)」「基礎教養講座」、習熟度別授業、補習などの内容の充実	ア・「茨田検定」「基礎教養講座」等の充実で就職試験対策を実施し、丁寧な進路指導をめざす。 ・各中間考査後と夏季・冬季休業期間中に、座学教科の成績不振者への指名補習、個別指導を充実させ進級する生徒を増やす。	ア・「(自) きめ細やかな進路指導」 目標：85%[90.1%] ・進級率の増加 目標：2 年生 95%の進級率 [2 年 77.1%]	ア・「(自) きめ細やかな進路指導」の回答は 74.5%で、目標 85%を下回った。(△) ・2 年生進級率は 95%で目標値 95%を達成した。(○)
イ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、放課後等の講習の積極的な実施	イ・応用的学力の習得のため、外部機関の資格試験(漢検・英検・P 検(パソコン検定・数検)等)を活用し、生徒の学力向上とキャリアアップを図る。	イ・2 年生全員が英検・漢検いずれかを受検する。 [R4：全員受検]	イ・2 年生全員が英検と漢検を全員受検。(◎)
ウ 生徒の進路に応じた講座の充実による、進路希望の実現	ウ・進学希望者に対して、進路希望に応じた多様な講習を実施する。 ・充実した進路 HR を展開し、就職希望者に対して、インターンシップや試験対策講座を 2 年生から実施することで希望進路の実現をめざす。	ウ・進学、就職希望者対象用講習 開講講座数確保 [7 講座 170 名] ・希望進路実現のため、就職希望者の全員参加をめざす。 ・進路決定未定者の割合を 7%以下にする。[5%]	ウ・開講講座は 11 講座 164 名で、目標値の 7 講座を上回った。(○) ・就職希望者 28 名に対し、26 名参加で、目標の全員参加にはならなかった。(△) ・進路決定未定者の割合は 7.5%で目標値の 7%を上回った。(△)

府立茨田高等学校

2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出	1) 安心・安全で、より良い人間関係作りの実現	1)	1)	1)
	ア 教員のコミュニケーション指導力の充実	ア・定例のコミュニケーション委員会とコミュニケーションコース担当者会議で、生徒のコミュニケーション能力向上の取組強化を図る。 ・教員それぞれが、生徒のコミュニケーション能力向上のための取組を行い、その内容と効果を集約して全教員で共有し、教員のコミュニケーション指導力を向上する。 ・いじめに対する教職員研修といじめ防止委員会の定期開催し、いじめの早期発見と対応に努める。	ア・コミュニケーション委員会・コミュニケーション担当者会議の定期的実施 (コミュニケーション委員会：年20回、コミュニケーション担当者会議：年3回開催) [18回・3回] ・「(自) いじめへの対応」生徒の肯定率 目標：85%[85.6%]	ア・コミュニケーション委員会は年間4回で目標の年20回を下回った。(△) コミュニケーション担当者会議は年間4回で目標年3回を上回った。(○) ・「(自) いじめへの対応」生徒の肯定率は75.3%で目標値の85%を下回った。(△)
	イ 教職員 PM 研修の実施による、PM の理解と普及促進	イ・「PM」のテキストを活用し、教職員 PM 研修を校内で実施し、校外にも普及を図る。 ・PM の技法を応用し、自分を大切にし、他者を理解することをベースとした生徒指導を展開する。	イ・教職員 PM 研修年1回実施 ・「(自) カウンセリングマインドを取り入れた指導を行っている」教員の肯定率 目標：75%[67.7%]	イ・教職員 PM 研修年1回実施。(○) ・「(自) カウンセリングマインドを取り入れた指導を行っている」教員の肯定率は86.4%で目標値の75%を上回った。(◎)
	ウ 部活動の活性化	ウ・体験入部等、年度当初の新入部員獲得に向けた行事の充実 ・地域連携を活用した部活動の活性化 ・文化部の発表の場として、近隣中学や住民を招待したイベント「茨田高校フェスティバル」の開催	ウ・入部率の目標：40%[20.0%] ・茨田高校フェスティバルを年1回開催[2月に開催]	ウ・入部率は25%で目標値の40%を下回った。合同部活動の計画をしていたが、実際には実施できなかった。(△) ・茨田高校フェスティバルは部員の減少により、実施できなかったが、それに代わる地域の祭りやPTA文化教室に参加し、文化部活動の活性化につなげた。(○)
	エ 安全・安心な学校づくり	エ・非常時に地域での役割を意識した防災体制の構築。防災計画の徹底と日常の点検、防災訓練での役割の具体化。	エ・「(自) 災害等に対して役割分担の明確化」目標：85% [71.0%]	エ・「(自) 災害等に対して役割分担の明確化」の回答は86.4%で、目標値の85%を上回った。(○)
	2) 生徒のコミュニケーション能力向上	2)	2)	2)
	ア 生徒のコミュニケーション能力の向上機会充実	ア・校内の「あいさつ通り」を活用し、集会時、授業時でのあいさつ指導とともに全校的な指導を徹底した上で、その効果をアンケートで確認する。 ・コミュニケーションをテーマとしたホームルーム（「コミュニケーション HR」）を実施し、志学と連携したコミュニケーション教育を充実する。 ・いじめを起こさない生徒の育成	ア・31項目のコミュニケーション能力アンケートを年2回実施 (目標：24項目以上で肯定的な回答の数値80%以上) [20項目] ・コミュニケーション HR を年3回実施。 ・いじめを受けたと答えた回答数 [累計(夏)11件⇒(冬)8件]	ア・コミュニケーション能力アンケートを年2回実施し、19項目以上で肯定的な回答の数値80%以上となり、目標値の24項目以上を下回った。(△) ・コミュニケーション HR を年3回実施。(○) ・いじめを受けたと答えた回答数 [累計(夏)4件、(秋)1件(冬)2件] (○)
	イ 『コミュニケーションコース』の内容充実	イ・「PM I」「PM II」履修生徒の中から NPO 法人シヴィルプロネット関西によるメディアエーター認定試験の合格者を出す。	イ・コース選択生徒アンケート「コースで学んで話し方や行動が変わった」 (目標：80%以上) [86.7%] ・メディアエーター認定証取得者の増加 (目標：5名以上) [4名]	イ・コース選択生徒アンケート「コースで学んで話し方や行動が変わった」は100%で、目標値80%を上回った。(◎) ・メディアエーター認定証取得者は4名で目標値の5名以上を下回った。(△)
	ウ 多文化理解と授業でのプレゼンテーション実施による、英語を含めたコミュニケーション	ウ・「カルチャー・デイ」を実施することで、英語などの授業で取り組んだプレゼンテーション能力を活用する場を設ける。	ウ・高大連携による「カルチャー・デイ」を11月に実施	ウ・留学生の関係で、高大連携ではなく、大阪府国際交流財団の外国人サポーターによる「カルチャー・デイ」を1月に実施し、多くの国に関する情報を得ることができ

府立茨田高等学校

	<p>ン能力の向上</p> <p>エ 進路指導を通してのコミュニケーション能力の向上</p> <p>オ 思いやりある生徒の育成</p> <p>3) 教員の資質向上</p> <p>ア 課題解決できる教員の育成</p> <p>イ アレルギー・感染症への取り組み</p> <p>ウ 中途退学・不登校生徒への対応</p> <p>エ 生徒理解のための指導体制を確立</p>	<p>エ・希望する生徒への面接指導や、職場訪問による『働く人』とのコミュニケーション機会を増やす。</p> <p>オ 高齢者施設・障がい者との交流の場の設定、障がい者差別解消法の趣旨の理解を図る。</p> <p>3)</p> <p>ア 各教員が外部研修等の内容伝達を職員会議で行い、粘り強く生徒へ指導する姿勢を持つことを、全教員が共有できるようにする。</p> <p>イ 最新の情報を取り入れ、食物アレルギー対応や感染症の拡大防止に努める。</p> <p>ウ 家庭との連携を強め、その情報をもとに担任以外の教員もきめ細かな対応を可能にするよう努める。</p> <p>エ 生徒が納得感を持つ生徒指導を行うため、毎週の学年会、教育相談委員会、生指部会で指導状況の確認、点検</p>	<p>エ・学校幹旋就職希望生徒全員に応募前職場見学を実施 [107社 128名]</p> <p>・ジュニアインターンシップ実施</p> <p>オ・年1回の交流会を実施 [寝屋川支援学校との交流]</p> <p>・生活福祉の授業での施設交流 [2回実施]</p> <p>3)</p> <p>ア・「(授)授業で知識技能が身につく」 目標：平均3.5ポイント以上 [3.45ポイント]</p> <p>イ・教職員研修を年間2回以上実施 [2回]</p> <p>ウ・「(自)担任以外に相談できる」 目標：85%以上 [83.2%]</p> <p>エ・「(自)学校生活において先生の指導は納得」目標75%[72.9%]</p>	<p>た。(○)</p> <p>エ・学校幹旋就職希望生徒全員に応募前職場見学を[74社90名]実施した。(○)</p> <p>・ジュニアインターンシップは実施できなかったが、就職対策講座でキャリア教育コーディネーターを活用した面接練習を強化し、コミュニケーション能力の向上につなげた。(○)</p> <p>オ・寝屋川支援学校との交流実施</p> <p>・生活福祉の授業での施設交流2回実施</p> <p>・音楽科でも高齢者施設の交流実施(◎)</p> <p>3)</p> <p>ア・「(授)授業で知識技能が身につく」の回答は3.62で目標値の3.5を上回った。(○)</p> <p>イ・教職員研修を年間2回実施(○)</p> <p>ウ・「(自)担任以外に相談できる」の回答は77.4%で目標値の85%を下回った。(△)</p> <p>エ・「(自)学校生活において先生の指導は納得」の回答は65.6%で目標値75%を下回った。(△)</p>
3 地域連携の推進	<p>1) 地域連携を通じた生徒の成長促進</p> <p>ア 地域活動への参加</p> <p>イ 校内での地域の人々との交流</p> <p>2) 中学校連携の充実</p> <p>ア HPの充実</p> <p>イ 中学校連携の充実</p>	<p>1)</p> <p>ア・生徒の自己肯定感の育成と地域に開かれた学校をめざすため、地域自治体・自治会の要望を受け、地域活動へ積極的に参加。</p> <p>イ・本校の取り組みや生徒の頑張りを理解してもらうため、PTA文化教室に地域の方の参加枠を設ける。</p> <p>2)</p> <p>ア 学校HPを1週間に1回更新する。</p> <p>・災害時の対応、行事、授業参観案内をプリント配布と共にHPに掲載し保護者にも周知</p> <p>イ 在校生等が中学校訪問するなど、在校生の成長した様子が分かるような取り組みを行う。</p>	<p>1)</p> <p>ア・地域活動へ参加回数を維持する 目標：年間4回以上 [2回]</p> <p>イ・文化教室年1回の実施 [1回]</p> <p>2)</p> <p>ア・1週間に1回の更新を維持する。 [毎週更新]</p> <p>イ・在校生代表や教職員が訪問し、学校生活の様子を説明。 目標：20校</p>	<p>1)</p> <p>ア・地域活動への参加回数は5回で、目標値の年間4回は上回った。(○)</p> <p>イ・文化教室年1回の実施。(○) コロナ明けで近隣の方々と交流が叶った。</p> <p>ア・毎週更新はできなかった。(△)</p> <p>イ・教員が学校訪問や電話で卒業生の状況を近隣の中学校中心に20校報告。中学校によってはこれまでのつながりから、丁寧に報告があったと大変喜ばれた。(○)</p>

府立茨田高等学校

4 校務の効率化で働き方改革の推進	1) 校務の効率化	1) 働き方改革の観点から ICT 活用の推進により業務の精選・効率化を図り超過勤務の削減に努める。	1) ・目標：月 80 時間以上の超過勤務の解消 年間延べ 5 名以下[5 名]	1) ・月 80 時間以上の超過勤務者は 0 名 で目標値の年間延べ 5 名を大きく下 回った。(◎)
----------------------	-----------	--	--	--